第4節　亀山構内の立会調査

1　教育学部附属山口小学校散水栓改修に伴う立会調査

調査地区　　教育学部附属山口小学校構内

調査期間　　昭和60年9月5日

調査方法　　工事施工時における立会調査

調査面積　　約1㎡

調査結果　　調査地区は小学校敷地の東端部付近、低学年棟の所在する地域である。

昭和58年度の調査で、同校敷地の西半部にあたる運動場から弥生時代終末～古墳時代初頭の溝状遺構および古墳時代中期の竈をもつ竪穴住居跡が検出され、新たに「白石遺跡」として周知されるにいたった。しかし、小学校の校舎棟が存在する東半部は、この運動場から階段状に約1.8m高所に位置しており、遺跡の分布範囲や旧地形の把握が急務であったため、工事規模に応じて立会調査を実施した。

工事地点は二箇所で、いずれも現地表下約40cmまでを掘削するものであったが、両地点とも造成時等の置土（攪乱土）の堆積が見られたのみで、遺物包含層、遺構は検出されなかった。

したがって、ほぼ平坦に造成されている小学校建物敷地部分の東側は、北および西側に所在する丘陵の張出し部分が、近年の改変を受けている地域にあたるものと考えられ、すでに地山が多少なりとも削平を受けているものと推察されるが、即断はできず、今後の調査による資料の蓄積が望まれる。

（河　村）

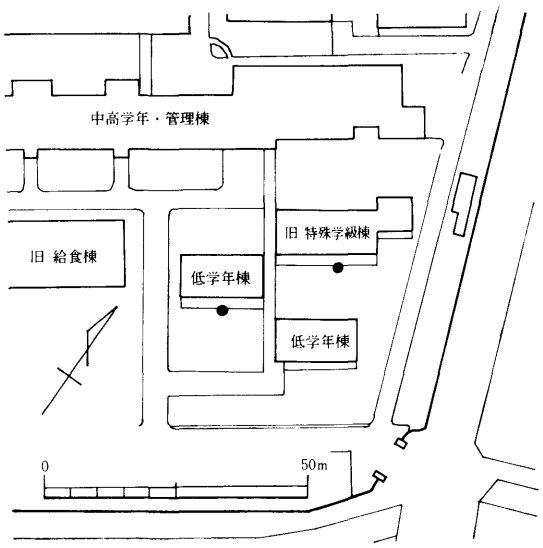

Fig. 48　調査区位置図

2　教育学部附属山口中学校球技コート整備に伴う立会調査

調査地区　　教育学部附属山口中学校構内

調査期間　　昭和60年９月25日

調査方法　　工事施工時における立会調査

調査面積　　約２㎡

調査結果　　本学での施設整備の進展に加え、あいつぐ開発によって吉田地区以外の各地区周辺でも新たな遺跡が周知されるにおよび、本学では昭和58年度以降各地区における埋蔵文化財の包蔵有無確認調査を実施している。附属山口小学校における試掘調査によって検出された鳥形木製品の出土した弥生時代終末～古墳時代初頭の溝状遺構および古墳時代中期の竈をもつ竪穴住居跡はその好例といえ、当中学校は最短距離にして南方約200ｍに位置し、付近には弥生時代終末～古墳時代初頭の茶臼山石棺群が所在する。

工事はバレーボールコート支柱基礎部分２ヵ所を約80㎝掘削するものであったが、掘削範囲内は黄褐色粘質土、青灰色粘質土の地山がブロック状に混入した攪乱土が認められた。当地区における調査資料が欠如しているため即断はできないが、同構内ないしは周辺に比較的安定した地山をもつ地域と、谷ないしは河川などのやや湿潤化した地域が埋存しているものと推察され、今後の調査で遺物包含層、遺構が検出される可能性がある。（河村）

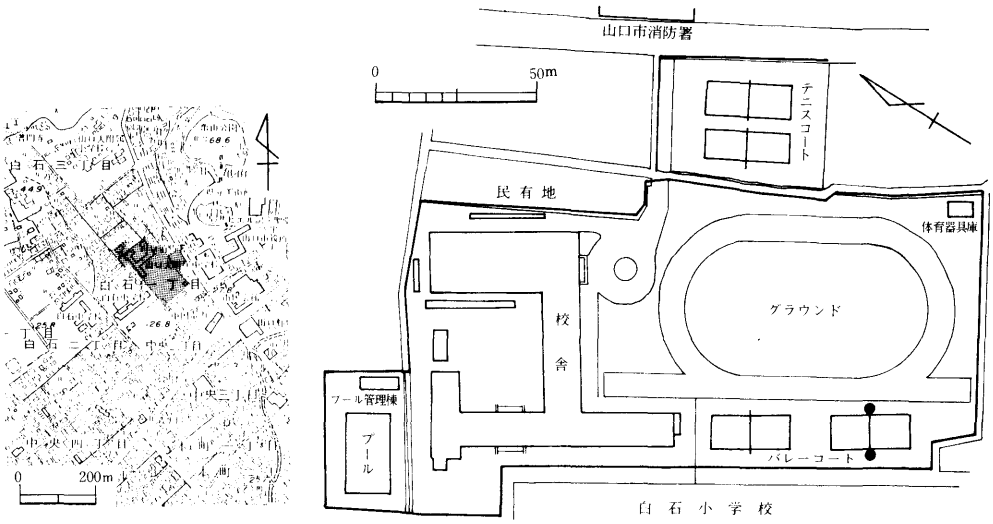

Fig. 49　調査区位置図

3　教育学部附属幼稚園環境整備に伴う立会調査

調査地区　　教育学部附属幼稚園構内

調査期間　　昭和60年３月４日

調査方法　　工事施工時における立会調査

調査面積　　約１m^2

調査結果　　教育学部附属山口小学校・幼稚園構内では、昭和58年度に試掘調査が実施され、鳥形木製品の出土した弥生時代終末～古墳時代初頭の溝状遺構や、５世紀前半に遡る可能性のある竈をもつ竪穴住居跡が検出された。これらの各遺構は、小学校校舎棟の存在する平坦面より約 1.5m低い運動場部分で検出されたもので、同構内の西部に位置する。

また、各トレンチの所見から、旧地形は北から南へ、また、東から西へ下降していることが推察され、同構内の東部にあたる小学校舎および幼稚園舎敷地部分における埋蔵文化財の有無確認の調査が必要とされた。

本年度にいたって、同構内の北東端部にあたる幼稚園舎敷地部分で樹木の移植が計画された。当該地域周辺では、過去に調査は全く行なわれていないため工事内容をふまえて立会調査を実施した。

工事による掘削は現地表下約80cmまであったが、腐蝕土および構内造成地等の置土（攪乱土）の堆積が見られたのみで、顕著な遺構、遺物は確認できなかった。

ただし、植栽地域は旧山口大学宿舎棟の存在地域であったため攪乱が著しく、この攪乱土の厚さが、幼稚園舎敷地部分全面での今後の諸工事にたいして、埋蔵文化財に影響のない表土の厚さを代表するものではない。

（河　村）

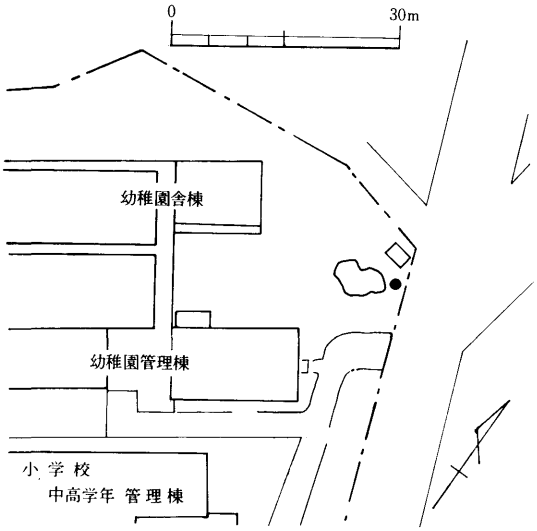

Fig. 50　調査区位置図